

神戸ポートミュージアム

Kobe Port Museum

No. 12-071-2022作成

新築

水族館・物販・飲食

発注者	合同会社AQUART神戸	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	大成建設株式会社		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

大地と水の建築

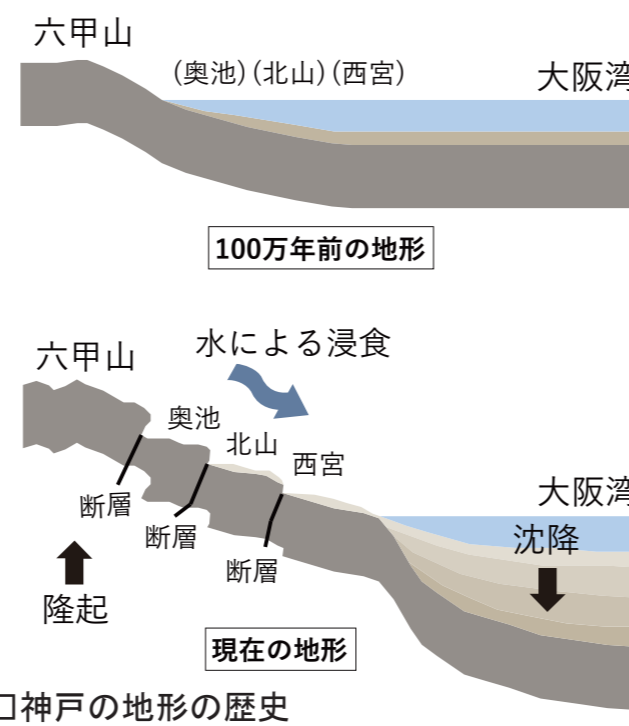


神戸の地層が隆起した建築

神戸ポートミュージアムは神戸港に面した、アクアリウムを中心とする複合文化施設である。海と山に囲まれた特徴的な地勢や震災の遺構が残る突堤エリアに対し、地殻変動を繰り返してきた土地の歴史を伝え、一過性をもたない時間とともに生きる建築を考えた。

建築とは大地を改変することであり、大地の延長ですらある。神戸の地形の成り立ちに倣い、建築を構成する材料や工法を見直すことで、海・山の地場産骨材を水で洗い出した地層のような質量・質感のある建築を実現した。また、岩窟のようなアトリウムから頂上の屋上テラスに至るまで、大地を登りながら水族や神戸の景色を楽しめる動線とした。

屋上には瀬戸内海沿岸部でみられるワイルドな樹々を植え、経年変化と共に緑に覆われ少しずつ自然に還っていく、“大地の延長”のような建築である。



コンクリートの地産地消

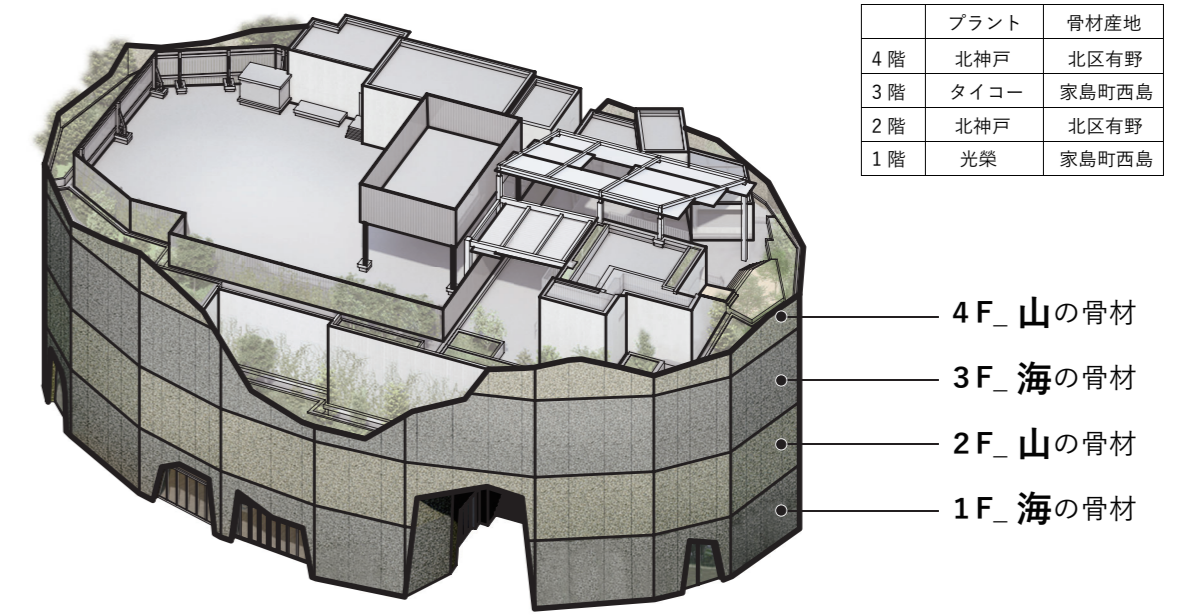
躯体には瀬戸内海西島と六甲山有野からとれる骨材を採用し、階層ごとに海の骨材(グレー系)と山の骨材(茶系)を使い分け、神戸の地層の成り立ちを地上に延長する計画とした。また同じ階層は一つのプラントに限定して打設することで、地層の水平方向の積層を強調している。



六甲山の骨材

瀬戸内海の骨材

階ごとに骨材を使い分ける打設計画

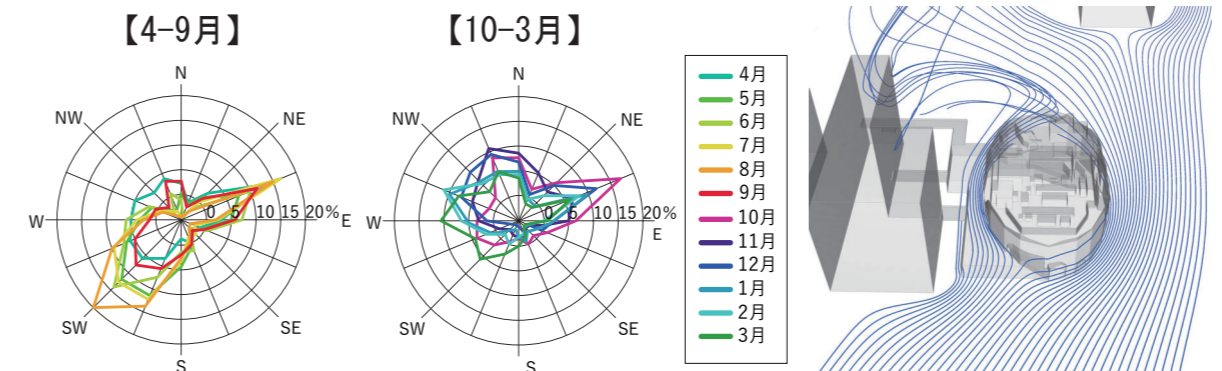


	プラント	骨材産地
4階	北神戸	北区有野
3階	タイコー	家島町西島
2階	北神戸	北区有野
1階	光榮	家島町西島

- 4F_山の骨材
- 3F_海の骨材
- 2F_山の骨材
- 1F_海の骨材

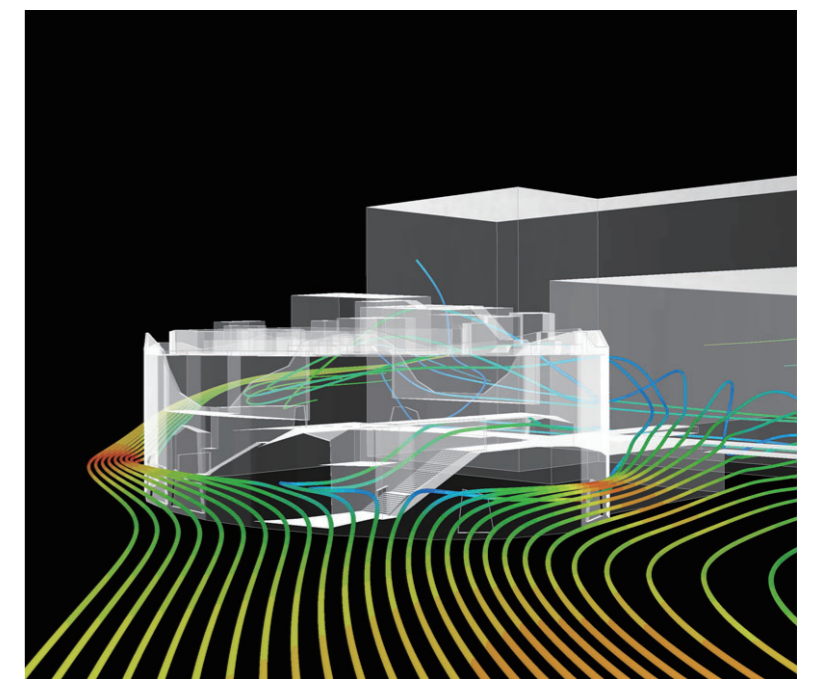
風を受け流す形・取り込む形

神戸は六甲嵐と呼ばれる北側からの強い山風が吹く。楕円形状の短辺方向を山側に向け風を受け流す建物配置とし、隅角部の負圧の影響を抑えている。また反対に4月～9月の温かい時期の瀬戸内海から吹く心地よい海風は東西を貫くアトリウムに取り込み、海と山との大きなつながりの中で建物形態を決定した。



月別風配図

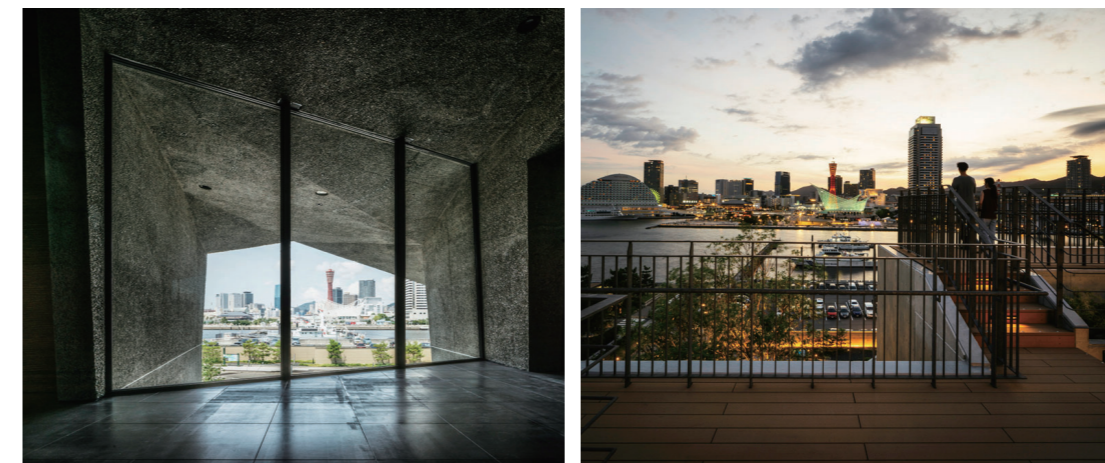
山風を受け流す楕円形



海風を取り込むアトリウム形状

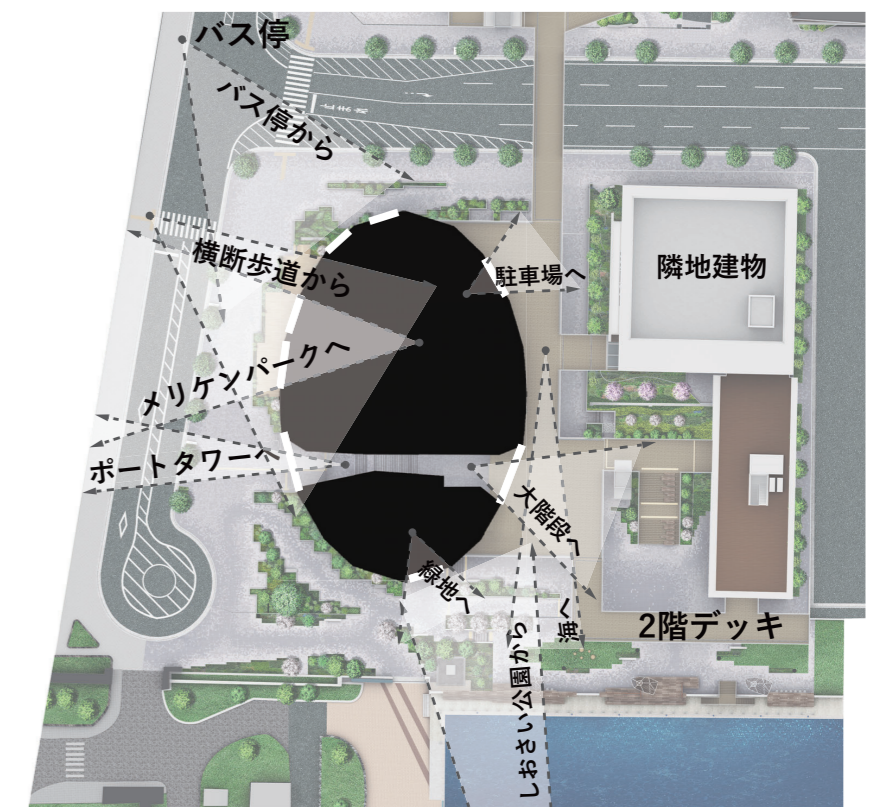
周辺環境に呼応した掘り込み

対岸、バス停等、周辺からの視点に配慮した位置に掘り込みを設けることで、入口としての視認性を確保するとともに、周辺から賑わいを感じることができる。また既存の景観資源を取り込むように、タワー等への眺望に適した位置・高さに掘り込み形状を調整し、外側・内側からの双方で周辺とつながる計画とした。



タワーの高さに合わせた開口部

神戸港を望める頂上のテラス



周辺環境に合わせた開口部の配置

設計担当者

統括：高島謙一／建築：土井健史、傳寶知晃、原田健介／構造：山崎英一、阪井由尚、ラファード・マティ／設備：高木淳、入江俊介、根本泰明／エンジニアリング：小菅智、稲葉典史、内藤大樹、太田勇二

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2.3 対応性・更新性(更新性に配慮した耐震壁付ラーメン構造)
- Q3.2 まちなみ・景観への配慮(敷地全体を公園のように計画し、景観にも配慮)
- Q3.3 地域性・アメニティへの配慮(地場産骨材を使ったRC洗い出し仕上げ)
- LR2.2 非再生性資源の使用料削減(神戸の歴史を継承する煉瓦廃材の採用)
- LR3.2 地域環境への配慮(風シミュレーションによる建物ボリューム・配置検討/屋上緑化)

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	兵庫県神戸市	Aランク
竣工年	2021年	BEE=1.5
敷地面積	5,328 m ²	2016年度版
延床面積	7,283 m ²	
構造	RC造(耐震壁付ラーメン構造)	
階数	地下1階、地上4階	

